

いわて 復興の歩み

2011.03-2017.03 東日本大震災津波からの復興の記録



平成29年7月

 岩手県

北上市
第16回全国障害者スポーツ大会
「希望郷いわて大会」開会式
(平成28年10月)

目次 CONTENTS

はじめに	1
1 概況・被害状況と復興計画	2
2 復興の状況	4
3 これまでの主な取組	
①防災のまちづくり	6
②交通ネットワーク	8
③生活・雇用	9
④保健・医療・福祉	10
⑤教育・文化	12
⑥地域コミュニティ	13
⑦水産業・農林業	14
⑧商工業・観光	15
⑨情報発信・絆づくり	17
⑩全国・海外からの応援	18
4 三陸創造プロジェクト	20
5 主な復旧・復興事業の今後の見通し	22
6 これまでの復興の歩み	23

岩手県の紹介



スマートフォン等で二次元バーコードを読み込んで下さい。岩手県公式HP「いわて復興の歩み」動画ページに進みます。

知事メッセージや
岩手県沿岸地域の様子が
映像でご覧になれます。



はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災津波により、岩手県では、沿岸部を中心に災害関連死を含め5,135名の尊い命が奪われました。犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。また、今なお1,122名の方々が行方不明となっており、御家族の皆様から心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災津波からの復興に当たっては、犠牲になられた方々の故郷への思いをしっかりと引き継ぐこと、そして、被災された方々の「暮らし」、「学び」、「仕事」を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障していくことを原則に、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指して、一日も早い復興の実現に向け、県政史上かつてない規模と体制で取り組んでまいりました。

これまで、県内外の皆様のお支援をいただきながら、基盤復興期間である第1期(平成23年度から平成25年度まで)においては、被災地域の復旧・復興の第一歩となる緊急的な取組を重点的に進めました。また、本格復興期間である第2期(平成26年度から平成28年度まで)においては、復興まちづくりを進めるとともに、被災者の生活の安定と住宅再建、地域産業の再生など、将来にわたって持続可能な地域社会の構築に向けて取り組んできました。

このような中、昨年は「広げよう 感動。伝えよう 感

謝。」をスローガンに、東日本大震災復興の架け橋「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」が開催され、「地元の底力」と震災により培われた全国に広がる様々な「つながりの力」を披露する機会として、成功裏に終えることができました。

今後もこうしたつながりや絆を力としつつ、復興事業の総仕上げを視野に、復興の先も見据えた地域振興にも取り組みながら、被災からの復旧にとどまらない三陸のより良い復興の実現に向けて復興を力強く推進してまいりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、この小冊子により、本県の復興の状況について理解を深めていただくとともに、日本全国及び世界中の皆様が、今後、様々な自然災害に立ち向かい、新しい復興を進めていくため、広く御活用いただきますよう、お願い申し上げます。



平成29年7月11日
岩手県知事

達増拓也



概況・被害状況と復興計画

東日本大震災津波の概況 (岩手県災害対策本部調べ)

- ▶名称(発生日時) 東日本大震災津波(平成23年3月11日(金)14時46分頃)
※地震による震災の名称について、政府は「東日本大震災」としていますが、岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしています。
- ▶震源地 三陸沖・牡鹿半島の東南東約130km付近(北緯38°06.2'／東経142°51.6')
- ▶震源の深さ・規模 24km・マグニチュード9.0(モーメントマグニチュード)
- ▶本県の最大震度 震度6弱:大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町
- ▶津波の最大波 [宮古]11日15時26分 8.5m以上 [釜石]11日15時21分 4.2m以上
[大船渡]11日15時18分 8.0m以上 [久慈港]8.6m(推計値)

宮古市(平成23年3月11日)

岩手県における被害状況

痕跡高・死者数・行方不明者数・家屋倒壊数
(平成29年3月31日現在)

洋野町 痕跡高…洋野・久慈北海岸12.0m 家屋倒壊数 …… 26棟	野田村 痕跡高…野田湾21.4m 死者数… 39人 家屋倒壊数 …… 479棟
久慈市 痕跡高…久慈湾13.7m 死者数… 3人/行方不明者数…2人 家屋倒壊数 …… 278棟	普代村 痕跡高…普代海岸18.4m 行方不明者数 …… 1人
岩泉町 痕跡高…岩泉海岸20.2m 死者数… 10人 家屋倒壊数 …… 200棟	田野畑村 痕跡高…田野畑海岸23.0m 死者数… 17人/行方不明者数 …15人 家屋倒壊数 …… 270棟
大槌町 痕跡高…大槌湾15.1m 死者数… 854人/行方不明者数 …423人 家屋倒壊数 …… 4,167棟	宮古市 痕跡高…重茂海岸21.8m 死者数… 475人/行方不明者数 …94人 家屋倒壊数 …… 4,005棟
釜石市 痕跡高…両石湾22.6m 死者数… 993人/行方不明者数 …152人 家屋倒壊数 …… 3,656棟	山田町 痕跡高…船越湾19.0m 死者数… 687人/行方不明者数 …148人 家屋倒壊数 …… 3,167棟
内陸部 死者数 …… 33人 行方不明者数 …… 5人 家屋倒壊数 …… 1,845棟	大船渡市 痕跡高…綾里湾23.8m 死者数… 422人/行方不明者数 …79人 家屋倒壊数 …… 3,938棟
本県全体 死者数 …… 5,135人 行方不明者数 …… 1,122人 家屋倒壊数 …… 26,077棟	陸前高田市 痕跡高…広田湾18.3m 死者数… 1,602人/行方不明者数 …203人 家屋倒壊数 …… 4,046棟

※死者数は、直接死(岩手県警調べ)及び関連死(岩手県復興局調べ)。
※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数。
※痕跡高は、堤防付近での測定値(「岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定について」による)。



久慈市



野田村



田野畑村



山田町



大槌町



釜石市



大船渡市



陸前高田市

○産業被害額 (平成23年11月25日現在)

●農林業	984億円
●水産業、漁港	5,649億円
●商工業	1,335億円
●観光業(宿泊施設)	326億円
●合計	8,294億円

○公共土木施設被害額 (平成23年7月25日現在)

●河川、海岸、道路等施設	1,723億円
●公園施設	405億円
●港湾関係施設	445億円
●合計	2,573億円

○津波浸水範囲の土地利用構成率

田	その他の農用地	森林	建物用地
17%	4%	9%	34%

(平成23年4月18日国土地理院「津波浸水範囲の土地利用別面積について」による)

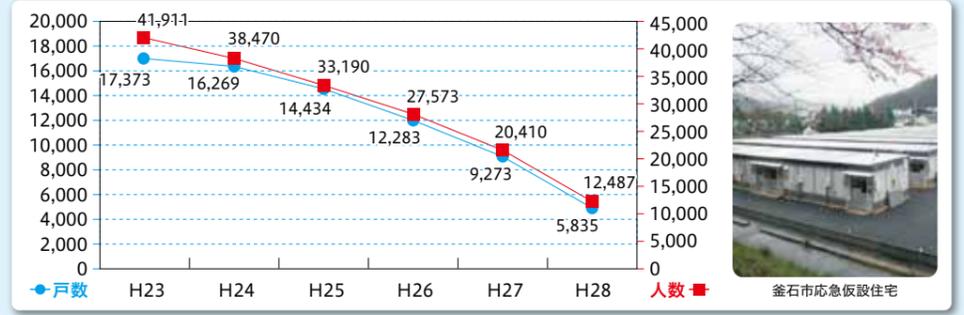
○推定資本ストック被害額・被害率

(単位:10億円)

	推定資本ストック A	推定資本ストック被害額					被害率 B/A	GDP値 C	被害額がGDPに占める割合 B/C
		生活・社会インフラ	住宅	製造業	その他	合計 B			
岩手県	26,369	457	22	64	211	754	2.9%	4,255	1.0年分
内陸部	7,449	1,943	607	191	781	3,522	47.3%		
沿岸部	33,818	2,400	629	255	992	4,276	12.6%		

※推定資本ストック被害額及び被害率については、株式会社日本政策投資銀行推計(平成23年4月28日)
※GDP値は、「平成21年度の県民経済計算について」(平成24年2月29日 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部)による

○応急仮設住宅等への入居状況 (平成29年3月31日現在)



釜石市応急仮設住宅

岩手県東日本大震災津波復興計画

岩手県では、今回の震災を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、平成23年8月11日に「復興計画」を策定しました。
この計画に基づき、再び津波によって命が失われることのない、より安全で暮らしやすい地域を創り上げていきます。

目指す姿 「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」

計画期間 平成23年度から平成30年度までの8年間

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
------	------	------	------	------	------	------	------

岩手県東日本大震災津波復興計画

復興基本計画 (平成23～30年度)

復興実施計画

(第1期) 基盤復興期間 (平成23～25年度)	(第2期) 本格復興期間 (平成26～28年度)	(第3期) 更なる展開への連結期間 (平成29～30年度)
------------------------------------	------------------------------------	---

復興・復興の第一歩となる緊急的な取組のほか、本格的な復興に向けた基盤づくりに取り組む。

復興まちづくりを概成させ、被災者の生活の安定と住宅再建、水産業をはじめとする地域産業の再生などの本格復興に取り組む。

被災からの復旧にとどまらない、将来にわたって持続可能な新しい三陸の創造に向けた取組を展開する。

問合せ先 復興局復興推進課 ☎019-629-6945

復興の状況



東日本大震災津波で甚大な被害を受けた陸前高田市で、岩手県が整備する高さ12.5メートル、全長2,000メートルの県内最大規模の防潮堤がほぼ完成しました。平成25年3月に着工し、平成31年度末までに海岸に隣接する気仙川の水門工事と接続する区間の防潮堤の整備が完了する予定です。この防潮堤は、数十年から数百年に一度の頻度で発生する津波高を想定して建設されています。

陸前高田市(平成28年12月)

安全の確保

災害廃棄物の処理

災害廃棄物推計量525.3万トン

処理量 618.4万トン **118%**

(平成26年3月終了)



釜石市災害廃棄物の選別作業(平成25年10月)



久慈市久喜漁港海岸災害復旧工事(平成25年9月)

海岸保全施設の復旧・整備箇所数

計画箇所数 134箇所

完了 50箇所

37%

復旧・整備中 **63%**

復興道路供用延長キロ数

事業化延長 359km

供用中 139km **39%**

事業中 **61%**



東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～宮守)開通式(平成27年12月)

面整備事業箇所数

事業箇所数 158箇所

完了箇所数 111箇所

70%

整備中 **29%**

未着手 **1%**

宅地供給区画数

予定宅地区画数 7,809区画

供給区画数 4,169区画

53%

整備中 **47%**



山田町織笠地区防災集団移転住宅団地(平成28年10月)

※進捗状況は、特に表記のない場合、平成29年3月31日現在のものです。

暮らしの再建

応急仮設住宅等入居者数(みなし仮設を含む)

ピーク時(平成23年10月)43,738人 入居中 12,487人

退去 **71%**

29%

災害公営住宅整備戸数

整備予定戸数5,673戸

完成 4,594戸

整備中 7%

未着工 **12%**

※内陸部に整備する災害公営住宅291戸除く

被災者生活再建支援制度

基礎支援金支給件数 23,121件

加算支援金支給 12,057件 **52%**

基礎支援金支給のみ **48%**



陸前高田市応急仮設住宅(平成27年1月)



大船渡市泊里地区災害公営住宅(平成28年3月竣工)



大槌町立大槌学園(平成28年9月竣工)

医療施設数(沿岸地区)

震災前(平成23年3月)240施設

新設・再開 216施設 **90%**

未再開 **10%**

※自院または仮設施設において診療を行っている医療機関(病院・内科診療所・歯科診療所)

公立学校施設の復旧状況(沿岸地区)

被災学校数 86校

整備中 **2校**

工事完了 84施設 **98%**

2%

公立文化施設・体育館の復旧状況

整備予定施設数 68施設

整備中 8施設

未着工 7施設

工事完了 53施設 **78%**

12%

10%

なりわいの再生

産地魚市場水揚量

震災前3年間(H20～22)の平均 169,627トン

平成28年度 86,160トン **51%**

養殖生産量

震災前3年間(H20～22)の平均 47,478トン

平成28年度 27,542トン **58%**

農地の復旧面積

復旧対象面積 653ha

整備中 22ha

未着手 149ha

復旧済 482ha **74%**

3%

23%



久慈市サケふ化場(平成27年9月)



大槌町下野工区農用地
災害復旧関連区画事業で整備した
農地の営農状況(平成28年9月)

被災事業所における事業再開の状況(推計)

対象事業所数 2,490事業所

未再開等 515事業所

再開・一部再開 1,975事業所 **79%**

21%

(平成28年8月1日現在)

被災事業所における業績(売上)状況

対象事業所数 1,291事業所

被災前と同程度以上
627事業所

被災前よりも下回っているまたは
事業未再開等 664事業所

49%

51%

(平成28年8月1日現在)

主要観光地の入込客数

震災前(H22)470.3万人回

平成28年度 447.2万人回 **95%**

※県内主要観光地14箇所を対象



田野畑村机浜番屋群
(平成27年9月)



公民連携で整備した飲食店街
釜石漁火酒屋かまらば
(平成29年1月)

これまでの主な取組



三陸鉄道北リアス線全線運行再開 (平成26年4月)

1 防災のまちづくり

■ 災害廃棄物(がれき)の処理 約618万トン[本県一般廃棄物約14年分]の処理を終了

大震災津波により約618万トンの災害廃棄物が本県で発生しましたが、県内外の自治体の協力や、多くの関係者・住民の皆様のご理解とご支援に支えられ、平成26年3月末までにその処理を終えました。



宮古市赤前地区・宮古運動公園(平成23年5月撮影)

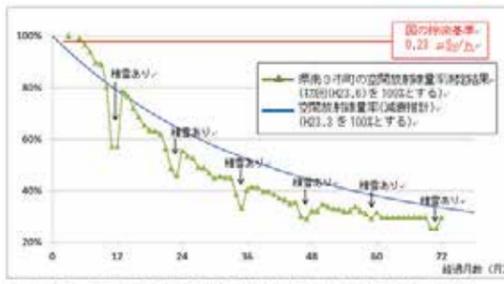


宮古市赤前地区・宮古運動公園(平成25年8月撮影)

災害廃棄物の広域処理先	
青森県	61,003ト
宮城県	4,326ト
秋田県	37,539ト
山形県	77,687ト
福島県	12,131ト
群馬県	7,673ト
埼玉県	1,147ト
東京都	106,051ト
神奈川県	159ト
新潟県	291ト
富山県	1,256ト
石川県	1,953ト
福井県	6ト
静岡県	3,176ト
大阪府	15,299ト
合計	329,697ト (1都1府13県)

■ 生活空間の放射線量などの測定 測定結果をホームページで公表

生活空間の放射線量や、大気中のちり、降水(雨、雪)、水道水、農林水産物などに含まれる放射能を測定し、その結果をホームページで公表しています。生活空間の放射線量は、平成25年8月以降、全地点で国の除染基準を下回っており、緩やかな低減から最近では横ばい傾向にあります。



「国 県南3市町(汚染状況重点調査地域)における測定結果の推移」
※積雪時は、遮へい効果が測定値が低めとなっています。

放射能に関する情報 >>
<http://www.pref.iwate.jp/houshasen/>



サーベイメータによる測定

■ 復興のまちづくり 災害に強い安全なまちづくりを実現

区画整理事業や防災集団移転促進事業などの面的整備事業は、各市町村の復興まちづくり計画に基づき、住民の意向を踏まえながら事業計画を策定し、工事を進めています。

平成29年3月末時点で、区画ベースでは予定している7,809区画全てで工事が着工しており、そのうち4,169区画(約53%)が完成しています。被災地のまちづくりは、今後本格化する状況です。



金石市嬉石・松原地区土地区画整理 (平成29年6月)



陸前高田市脇ノ沢地区防災集団移転住宅団地 (平成27年10月完成)

事業名	実施市町村数・実施箇所数/区画数	都市計画決定	事業認可(防集は大任同意)	工事着工地区	造成完了地区
土地区画整理事業	7市町村・19箇所/5,229区画	19箇所	19箇所	19箇所	4箇所/2,082区画
津波復興拠点整備事業	6市町・10箇所	10箇所	10箇所	10箇所	1箇所
防災集団移転促進事業	7市町村・88箇所/2,125区画		88箇所	88箇所	76箇所/1,698区画
漁業集落防災機能強化事業	11市町村・41箇所/455区画			39箇所	30箇所/389区画
合計	12市町村・158箇所/7,809区画			156箇所	111箇所/4,169区画

※漁業集落防災機能強化事業のうち、未着手の2地区は、いずれも宅地造成を行わないため、区画数に計上されていません。(平成29年3月31日現在)

■ 海岸保全施設等の復旧・整備 復興まちづくりと一体となった防潮堤・水門等の復旧・整備

被災した防潮堤等の海岸保全施設の復旧・整備に当たっては、高潮等の被害が予想される箇所について、仮防潮堤を築造する等の応急工事を実施したほか、津波、都市計画及び地震等の専門家で構成される「岩手県津波防災技術専門委員会」を設置し、各市町村から復興まちづくりの方向性を伺いながら、科学的・技術的な知見に立脚した防潮堤の高さや配置の検討を進め、平成23年10月までに本県沿岸を24の地域海岸に区分し、防潮堤等の高さを公表しています。

また、海岸保全施設の早期整備のため、事業用地の取得に当たり、任意交渉と平行した土地収用手続きを進めてきたほか、工期短縮や資材不足等へ対応するため、工場製品の活用などの取組を進めてきました。

この結果、平成29年3月末時点で復旧・整備が必要な134箇所全てで工事に着手するとともに、50か所で整備が完了しています。

海岸堤防高さの設定 >> <http://www.pref.iwate.jp/kasensabou/kasen/fukkyuu/settei/>



■ 水門・陸閘自動閉鎖システムの整備 津波注意報等を契機に水門・陸閘を自動で閉鎖

東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、操作員の安全の確保や津波から県民の生命と財産を守るため、衛星回線を活用し門扉の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めています。

当システムは、国が発令する津波注意報等(J-アラート)の受信を契機に、県内の各水門や陸閘に閉鎖の一斉命令を送信し、門扉の閉鎖や閉鎖にかかる安全警報等が自動で開始されます。

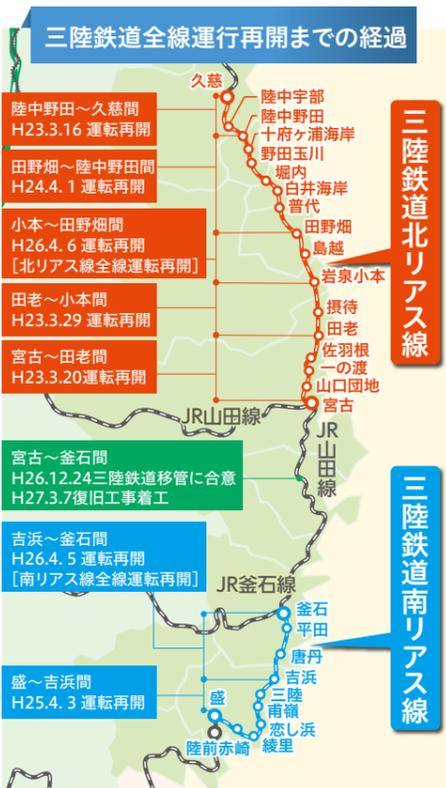
平成29年7月から一部で運用を開始し、今後、約220基の水門・陸閘での運用開始に向け、整備を進めていきます。

自動閉鎖システムの仕組み



大船渡市合足農地海岸試運転の様子 (平成29年4月27日)

② 交通ネットワーク



■ 三陸鉄道の復旧

全国的に注目を浴びる中、平成26年4月に全線運行再開

三陸鉄道は、震災により、橋梁、レール、駅舎の流出など計317か所に及ぶ被害を受け、全線不通となりましたが、多くの企業、団体、個人の皆様からの支援により、平成26年4月に全線で運行を再開しました。

平成25年にはNHK連続テレビ小説「あまちゃん」に「北三陸鉄道」として登場し、全国的に注目を集めました。

また、現在、JR東日本がJR山田線(宮古～釜石間55.4km)の復旧工事を進めており、復旧後の経営は、三陸鉄道に移管されることとなっています。平成30年度末を見込むJR山田線の移管開業により、これまで南北に分かれていた三陸鉄道が一本につながり、全国最長の第三セクター鉄道として、岩手県沿岸163kmを鉄道で結ぶことになります。



田野畑村 津波により線路が流出 (平成23年3月)



南リアス線全線運行再開記念列車出発式 大船渡市 (平成26年4月5日)

■ 三陸復興道路の整備

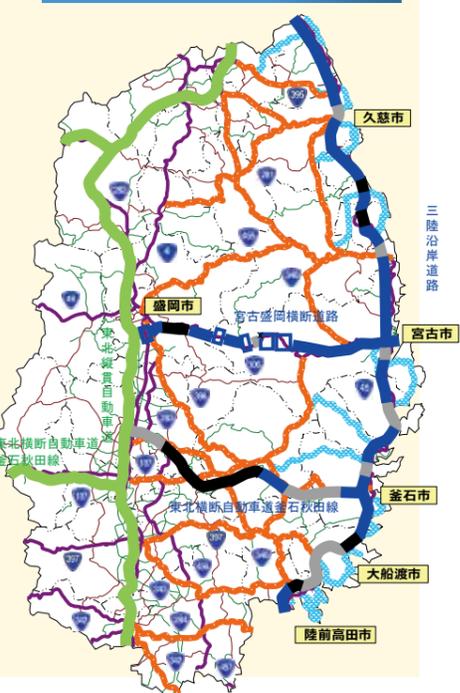
復興へ向け、かつてないスピードで整備中

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦貫軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ高規格幹線道路等である「復興道路」、内陸部と沿岸部の各都市を結ぶ横断軸等の「復興支援道路」、沿岸部の防災拠点等へアクセスする「復興関連道路」をそれぞれ整備してきました。

中でも復興道路は、震災以降平成29年3月末までに8区間58.4kmが供用され、残る区間についてもかつてないスピードで整備が進んでいます。



岩手県内の復興道路等計画路線



都南川目道路(川目～田の沢)開通式 (平成28年3月12日)



国道340号立丸峠(小峠区)開通式 (平成28年12月11日)

(平成29年3月31日現在)

③ 生活・雇用

■ 災害公営住宅の整備・住宅再建支援

恒久的な住宅供給のために

住宅を失った方への恒久的な住宅供給対策として、平成23年10月に「岩手県住宅復興の基本方針」を策定し、災害公営住宅の整備、民間持家住宅(自力再建)及び民間賃貸住宅への支援による住宅の再建支援に取り組んでいます。

そのうち、災害公営住宅については、平成29年3月末までに5,964戸の計画で4,594戸が完成しています。

災害公営住宅市町村別整備戸数		
市町村	整備予定戸数	うち完成戸数
洋野町	4	4
久慈市	11	11
野田村	100	100
田野畑村	63	63
岩泉町	51	51
宮古市	766	766
山田町	739	488
大槌町	900	432
釜石市	1,316	1,016
大船渡市	801	801
陸前高田市	895	835
その他市町村	318	27
合計	5,964	4,594

(平成29年3月31日時点)



大槌町寺野地区災害公営住宅(平成28年7月完成)



釜石市松原災害公営住宅(平成29年3月完成)

災害公営住宅の整備状況» <http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/kouei/009718.html>

住まいの改修・再建» <http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/saiken/index.html>

■ 被災者相談支援センター・いわて内陸避難者支援センターの設置

生活の再建に向けて様々な相談に対応

平成23年7月に沿岸4地区に被災者相談支援センターを設置し、生活再建に係る各種支援制度や今後の生活への不安など様々な相談に対応しています。弁護士などによる専門家相談も行っています。

また、平成28年5月にいわて内陸避難者支援センターを設置し、内陸及び県外に避難している被災者の住まいに係る相談に対応しています。

被災者相談支援センター

久慈地区 ☎0120-934-755 / 宮古地区 ☎0120-935-750
釜石地区 ☎0120-836-730 / 大船渡地区 ☎0120-937-700

いわて内陸避難者支援センター

☎019-601-7640



開設当初のセンター 釜石地区



■ 地域の雇用創出

被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支える

安定的な雇用及び地域の中核となる産業や地域経済の活性化に資する雇用を創出することにより、被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支えるため、被災求職者の雇入れに係る費用に対し、1人当たり3年間で最大120万円の助成を行っています。

平成28年度までの助成対象労働者数	
年度	人数
平成23年度	139人
平成24年度	5,332人
平成25年度	7,900人
平成26年度	4,270人
平成27年度	240人
平成28年度	105人
合計	17,986人

4

保健・医療・福祉



応急仮設住宅集会所での健康チェック

被災地における保健活動

長期化する応急仮設住宅生活に対応した予防医療

県、市町村や関係機関が連携しながら、看護職員が応急仮設住宅等を定期的に巡回するなどし、血圧測定などの健康チェックから日常の健康相談、健康教育などを行っています。

また、県歯科医師会及び県歯科衛生士会の協力のもと、被災地に歯科医師・歯科衛生士を派遣し、歯科健診、歯科相談、歯磨き指導等の歯科保健活動を実施しています。

こころのケアの取組

被災者1人ひとりの心に寄り添う

岩手県こころのケアセンターの設置

被災者の精神的負担を軽減するため、県内外のチームの支援により、「こころのケア」活動を行い、発災から平成24年3月末までに、延べ30チームの派遣を受け入れ、延べ約9,800人の住民のケアに取り組みました。

この活動を引き継ぎ、平成24年2月に、岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を、3月には、沿岸4箇所(久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市)に「地域こころのケアセンター」を設置し、被災者一人ひとりに寄り添ったこころのケアを推進しています。



岩手県こころのケアセンター職員による訪問活動

いわてこどもケアセンターの設置

震災により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古市に開設、気仙地区・釜石地区にも同センターを順次開設しました。

平成25年5月には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、クウェート国・日本赤十字社の支援により、「いわてこどもケアセンター」を矢巾町に開設。センターでは児童精神科外来診療のほか、沿岸地区への巡回診療、地域の支援者への研修等を実施しています。



いわてこどもケアセンター

被災地における医療確保支援

慣れ親しんだ地域で健康で安心して暮らせるように

済生会陸前高田診療所の開所

被災地支援として仮設診療所で診療をしていた、済生会陸前高田診療所が、恒久施設として生まれ変わり、平成29年2月19日に落成式を行いました。同診療所は県の被災地医療施設復興支援事業を活用して建設され、今後は医療提供施設としての役割の他に、地域交流の場としての役割も期待されています。



済生会陸前高田診療所

被災県立病院の再建

被災した県立病院の整備を進めています。平成28年5月に新大槌病院、9月に新山田病院が開院しました。新高田病院は平成29年度の開院に向け、取組を進めています。



県立大槌病院



県立山田病院

被災地における高齢者の交流促進

いつまでも健康・元気で生きがいを創造

被災地高齢者ふれあい交流促進

応急仮設住宅等にお住まいの被災者と地域住民との交流の活性化や高齢者の健康の維持・増進を図るため、気軽に参加できる「ふれあい運動教室」を開催するとともに、運動教室を住民の自主活動へつなげていく上で中心的役割を担う「ふれあい運動サポーター」の養成講座の開催や、養成講座修了者を対象としたフォローアップ研修を実施しています。



ふれあい運動教室

被災地における地域包括ケアシステム構築の支援

応急仮設住宅等にお住まいの要援護高齢者の介護予防や要介護高齢者のリハビリテーションに係る巡回相談・従事者への技術的助言等を行うとともに、現地の状況やニーズの変化に対応した介護予防教室・健康相談会・サロン等の開催支援、高齢者の相談・支援等に携わる関係者を対象とした研修の開催などを行うことにより、被災市町村における地域包括ケアシステム構築に向けた取組を支援しています。



シニア幸せ教室「一本松クラブ」



予防教室お茶っこサロン

防災ボランティア支援の取組

官民協働で効率的な防災ボランティア活動へ

ボランティア活動は、被災地のマンパワー不足を補うのみにとどまらず、柔軟できめ細かな支援活動により、多くの被災者を支えました。

こうした活動を一層推進するため、平成26年3月に策定した「岩手県防災ボランティア活動推進指針」に基づき、官民協働で「岩手県防災ボランティアネットワーク」を設置し、非常時における円滑なボランティアの受入に備えています。

平成28年台風第10号災害では、ネットワーク構成団体等が連携して災害ボランティアセンターを支援し、2万3千人を超えるボランティアの受入が行われました。



防災ボランティア支援ネットワーク研修会

岩手県防災ボランティア活動推進指針 ▶ <http://www.pref.iwate.jp/fukushi/chiiki/fukushisuishin/023266.html>

岩手県災害派遣福祉チームの設置

オール岩手で災害時の福祉を確保

今回の震災の経験を踏まえ、平成25年度に、県、福祉関係団体等と官民学共同により、大規模災害時において、避難所等で高齢者や障がい者など要配慮者の福祉・介護等のニーズ把握や応急支援などを担う「岩手県災害派遣福祉チーム」を設置しました。

平成28年熊本地震や平成28年台風第10号災害では、熊本県や岩手町へチームを派遣し、現地の支援関係者と連携して、避難所でのニーズ把握や環境改善、応急的な介助支援など様々な活動を行い、災害時における要配慮者支援体制の確保に努めました。

※要配慮者:高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者等特別な配慮を必要とする方



チーム員研修

岩手県災害派遣福祉チーム ▶ <http://www.pref.iwate.jp/fukushi/chiiki/fukushisuishin/023589.html>

⑤ 教育・文化



沿岸被災地での花壇整備ボランティア活動(平成28年6月)



防災教育教材(DVD)を活用した授業(平成26年6月)

■ 「いわての復興教育」

震災の教訓から得た3つの教育的価値『いきる』『かかわる』『そなえる』

県内全ての公立小・中学校等及び県立高等学校・特別支援学校では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、「いわての復興教育」プログラムに基づき、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。

また、震災津波を風化させることなく、児童生徒が3つの教育的価値を学ぶことができるよう、副読本や防災教育教材(DVD)を活用しながら、各学校の実情に応じた取組を展開しています。

震災の教訓から得た3つの教育的価値

- ◆ 生命や心について『いきる』
震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康
- ◆ 人や地域について『かかわる』
震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画
- ◆ 防災や安全について『そなえる』
震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全



副読本
(小学校低学年用)

「いわての復興教育」

<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/fukkou/051030.html>

問合せ先 ▶ 「いわての復興教育」教育委員会事務局学校調整課 ☎019-629-6206
 「防災教育教材(DVD)」総務部総合防災室 ☎019-629-5155

■ 文化・芸術による支援

文化芸術の力で子どもたちに笑顔を

国内外からの復興支援の一環として、現役最高齢のバイオリン奏者のイヴリー・ギトリスさんによる“復興の絆”コンサートを開催するなど、文化芸術の鑑賞機会や交流の場を提供しています。

また、被災地を対象に、小中学校などを会場にして、器楽演奏、人形劇、演劇など、芸術家の派遣公演を行う「文化芸術による子どもの育成事業」を実施しています。



いわて“復興の絆”コンサート(平成28年9月16日)



大船渡市立赤崎小学校(平成29年3月竣工)

■ 学校施設の新設・復旧

教育環境の整備・充実

被災した学校施設の復旧を進めています。平成29年3月末までに、被災した沿岸部の公立学校86校中84校の校舎が復旧しました。

■ いわての学び希望基金

子どもたちの「暮らし」と「学び」のために

県では、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」を支援するため、「いわての学び希望基金」を設置し、全国・海外の皆様からの善意の寄附を広く募っています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、19,971件、88億円(平成29年3月)となり、親をなくした子どもたちへの奨学金のほか、高校生に教科書購入費用や部活動の遠征費など、被災地の子どもたちを末永く支援していきます。

問合せ先 ▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

⑥ 地域コミュニティ

■ NPO等が行う復興活動を支援

復興支援の担い手の運営力を強化

NPO等は、その機動力、ネットワーク、専門性を活かし、復興支援活動をはじめとした地域課題解決に大きな役割を果たしています。

県は、平成25年度から「NPO等による復興支援事業」を実施し、NPO等が行う復興・被災者支援活動への助成や団体の運営基盤を強化するための支援を行っており、平成28年度は31団体に事業費助成を行いました。



助成事例
①

「薪を活用した地域・人・コミュニティづくり」

薪を活用したピザづくり体験や薪割り体験、薪の湯まつり等の薪を活用したイベント等を開催することで、被災者の心と体の健康促進、世代間交流による暮らしの安心の回復や、コミュニティ形成促進に寄与しました。

問合せ先 ▶ 環境生活部若者女性協働推進室 ☎019-629-5198

助成事例
②

被災地と支援者の想いを繋ぐ
心の交流コミュニティ形成



震災の記憶の風化防止のため、被災者と被災地に思いを寄せる支援者との心の交流を、物産展、交流会、広報活動を通じて実施しました。

■ 住民主体のまちづくり支援

笑顔と希望あふれるふるさと再生

被災地がふるさとの景観を守り育て、新たに良好な景観を築き上げていくために、県では、平成24年度に「ふるさと景観再生の手引き」を作成しました。

さらに、平成25~26年度には、地域らしい「景観」、親しみのある「ふるさと再生」のため、住民と「まちづくり検討会」等を開催し、平成27年度「景観と暮らしのデザインガイド」として公表し、まちづくり専門家の派遣と合わせ、復興まちづくりを支援しています。



まちづくり検討会(宮古市)

「景観と暮らしのデザインガイド」▶ <http://www.pref.iwate.jp/toshigesui/machizukuri/23155/027245.html>

■ 若者・女性の復興への参画

住民一人ひとりが復興の主役

県では、復興における女性参画の推進のため、様々な分野で活躍している女性を委員とした東日本大震災津波復興委員会女性参画推進専門委員会を設置しているほか、被災地で活動している若者との意見交換会を開催しています。

また、防災や復興に男女共同参画の視点を取り入れながら、復興が加速するよう、講演会とワークショップを組み合わせた「防災・復興について考えよう～男女共同参画の視点から～」を沿岸6地域(宮古市、久慈市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町)、内陸2地域(一関市、滝沢市)で開催しました。



女性参画推進専門委員会(平成29年3月)



若者との意見交換会(平成27年9月)

⑦

水産業・農林業

■ 漁船・共同利用施設・種苗生産施設等の復旧・整備

漁業者の生産活動の早期再開を支援

壊滅的な被害を受けた本県水産業の早期復旧・復興に向けて、漁協による漁船や養殖施設の一括整備、集荷場や作業場等の共同利用施設の復旧・整備などに取り組んできました。

その結果、平成29年3月現在、漁船や養殖施設の復旧は全て完了し、養殖ワカメの生産量は震災前の約7割、アワビの漁獲量は震災前の約6～8割まで戻るなど、漁業の復興が進んでいます。

今後は、更なる生産回復に向けて、新規就業者の確保や意欲ある漁業者の育成、6次産業化の促進による付加価値向上に取り組んでいきます。



早期復旧に向け漁協が核となって漁船を一括整備(首都漁港)



「漁業就業支援フェア」による漁業者と就業希望者とのマッチング支援(新規就業者の確保)



漁業者を対象とする経営能力向上のための研修会の開催(意欲ある漁業者の育成)

漁船等の整備状況・種苗等の生産供給状況			
区分	目標値	実績値	達成状況
漁船(累計)	6,693隻	6,485隻※1	96.9%
養殖施設(累計)	17,480台	17,428台※1	99.7%
サケ稚魚生産数(28年度)	4億尾	3.1億尾※2	77.5%
ウニ種苗放流数(28年度)	260万個	264万個	101.5%
アワビ種苗放流数(28年度)	740万個	700万個	94.6%

※1 事業完了(事業期間:平成23年度～平成27年度)※2 暫定値 (平成29年3月31日現在)

■ 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

地域に根ざした水産業の復興

漁業と流通・加工業の一体的な再生のため、県では、荷捌き施設、製氷・貯水施設、冷凍・冷蔵施設、水産加工施設などの復旧・整備等、産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を進めてきました。

その結果、平成29年3月現在、被災した県内全ての産地魚市場が再開し、製氷・貯水、冷凍・冷蔵の各能力は概ね震災前の水準まで回復したほか、被災した水産加工事業所の約9割が事業を再開しています。

今後は、新設復旧した産地魚市場や水産加工場の連携により、漁獲から流通・加工までの一貫した高度衛生品質管理体制を構築することで、産地競争力を高め、震災により失った販路の回復・拡大を図っていきます。



大船渡魚市場 高度衛生管理型魚市場の整備(平成26年4月完成)

主要4港(久慈、宮古、釜石、大船渡)の製氷・冷蔵能力復旧状況			
区分	震災前①	復旧状況②	②/①
製氷	535 t/日	647 t/日	120.9%
貯水	13,160 t	13,065 t	99.3%
冷凍(凍結)	1,691 t/日	1,616 t/日	95.6%
冷蔵	136,912 t	133,669 t	97.6%

(平成29年3月31日現在)



専門家による現地指導(高度衛生品質管理体制の構築)



「復興シーフードショーIWATE」の開催(販路の回復・拡大)

■ 県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信

風評被害対策と販路の回復・拡大

原発事故に伴う県産農林水産物の風評被害対策と、縮小した販路の回復・拡大に向け、全国の消費者やシェフ等を対象とした生活情報誌・電車広告・料理専門誌等でのPR、大都市圏での物産フェアや商談会、産地見学会などに取り組み、県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信を行いました。

しかし、依然として本県産農林水産物の購入をためらう等の風評被害があることから、引き続き、消費者の信頼回復と、県産農林水産物の販路の回復・拡大に向けた取組を進めていきます。



首都圏シェフを招いての産地見学会の開催



生産者と首都圏シェフ・パイヤーとの交流商談会



高品質で安全・安心な県産農林水産物をPRするポスター

⑧

商工業・観光

■ 被災地における起業・新事業活動等の支援

さんりくの起業等促進と魅力ある産業の創出

若者や女性をはじめ、被災地において新たなビジネス立上げにチャレンジしようとする方への支援を行うことで、復興まちづくりに合わせたなりわいの再生を図るため、平成25年度から「さんりく未来産業起業促進事業」、平成28年度からは「さんりくチャレンジ推進事業」を実施しています。

平成28年度末までに合計73名の方がこの事業を活用して起業や新事業活動の展開に取り組まれました。

本事業を活用し起業や新事業活動に取り組んだ事例

- ・低糖類・低カロリーの健康志向スイーツ専門店の出店
- ・理学療法士等の指導による介護予防フィットネスクラブの開設
- ・陸前高田市で唯一のネイルサロンの開設
- ・自家栽培のハーブを原料としたハーブティー等の製造・販売
- ・公共図書館に隣接した新スタイルの和カフェの開設
- ・いわて発高付加価値合金コパリオンの素材特徴を活かしたジュエリー開発



業種も多岐にわたっており、産業や雇用の創出だけではなく地域コミュニティの再生にも寄与しています

問合せ先▶ 復興局産業再生課 ☎019-629-6931

■ グループ補助金による中小企業等の再建支援

地域経済の早期復旧・復興に向けて

東日本大震災津波により被災された中小企業等グループの施設・設備の復旧・整備を支援するため、「岩手県中小企業等復旧・復興支援補助事業」を実施しています。平成28年度までに161グループ1,436事業者がグループ補助金を活用して復旧・復興を進めています。



大槌町グループ補助金により再開した商業施設

■ まちなか再生計画に基づく商業施設の整備

商店街の本格整備へ

山田町、陸前高田市、大船渡市において、「まちなか再生計画」に基づき、商業施設の整備と周辺のまちづくりが一体となって進められています。その他、釜石市でも計画の策定が検討されています。



山田町共同店舗棟「オール」(平成28年11月)

■ 企業誘致の取組

被災地域の魅力ある雇用の場の創出

被災地域における魅力ある雇用の場の創出と経済の活性化を実現するため、復興支援制度を活用しながら、復興を支える企業の誘致に取り組み、平成23年度から28年度までの6年間で、沿岸地域へ20社の企業立地につなげました。



宮古市へ誘致・再建した企業

誘致企業数と新規雇用者数		
年度	誘致企業数	新規雇用者数
平成23年度	6社	333人
平成24年度	4社	95人
平成25年度	3社	74人
平成26年度	3社	60人
平成27年度	2社	48人
平成28年度	2社	32人
合計	20社	642人

■ 三陸復興商品力向上プロジェクト

民間企業との協働による被災企業復興支援

県と民間との協働により、水産加工業などの販路回復や取引拡大を目指した商品力の向上を支援するため、平成24年10月に「三陸復興商品力向上プロジェクト」を立ち上げ、相談会を開催して県内165社(平成28年度末現在)の相談に応じたほか、東京都内の岩手県アンテナショップで、開発・改良した商品のテストマーケティングを実施しました。



相談会の様子

■ 復興の動きと連動した観光振興

観光入込客数が、概ね震災前の水準まで回復

平成24年4月から6月までの3ヶ月間、『いわてDC(デスティネーションキャンペーン)』を展開し、JRとのタイアップによる全国への情報発信や、二次交通の充実、旅行商品の造成・販売促進、県内各地における各種イベントを実施するとともに、平成25年度以降は、復興応援バスツアーの拡充や、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」で認知度が向上した三陸鉄道をはじめとする観光資源を活用したプロモーションの展開により、誘客拡大に取り組みました。平成28年度においては、震災学習を中心とした教育旅行や企業研修旅行に係る受入態勢の整備や誘致活動を重点的に取り組んだところ です。

こうした取組の結果、平成28年における県全体の観光入込客数が概ね震災前の水準まで回復(沿岸地域は概ね7割の水準)しています。



「いわてDC」クローズングセレモニー

観光入込客数の状況			
圏域	平成22年	平成28年	平成22年対比
県央(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢巾町)	887万人回	940万人回	105.9%
県南(花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町)	1,140万人回	1,136万人回	99.7%
沿岸(宮古市、大船渡市、釜石市、陸前高田市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村)	582万人回	388万人回	66.6%
県北(久慈市、二戸市、普代村、野田村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町)	287万人回	282万人回	98.5%
合計	2,896万人回	2,746万人回	94.8%

⑨ 情報発信・絆づくり

■ 「いわて三陸復興フォーラム」の開催

復興の今を伝え、復興への参画を促進

被災地域の現状や復興の取組についての情報を発信するため、「いわて三陸復興フォーラム」を、県内・県外で開催し、復興の取組に対する理解や、継続的な支援、参画の促進を図っています。

今後も、継続的に開催することで、震災の記憶の風化防止に努めながら、県内外の皆様との継続的な連携を図っていきます。



「いわて三陸復興フォーラム」(平成28年12月)

■ 「いわて復興だより」の発行

多くの支援に感謝! 国内外にいわての今を情報発信

「いわて復興だより」は多くの復興支援に対する感謝の気持ちを込め、岩手県の復旧・復興状況について発信することを目的に平成23年7月1日の創刊以来、「いわての今」を伝えていきます。併せて、海外に向け「いわて復興だより(英語版)」を公開しています。

また、平成25年5月より公開している「いわて復興だよりWeb」では、動画と写真たっぷりに復興状況を生き生きと伝えていきます。



■ 「いわて復興未来塾」の開催

産学官が連携して復興推進

復興を担う個人や団体など多様な主体が復興について幅広く学び合う「いわて復興未来塾」を継続的に開催し、相互に交流、連携しながら復興の推進を図っています。



平成28年度第4回いわて復興未来塾(平成29年3月)

■ 岩手復興ドラマの制作

復興に取り組む岩手の人々の姿を発信

東日本大震災津波からの復興の歩みをつづったドラマ「日本一ちいさな本屋」と「冬のホタル」を制作しました。

復興に取り組む人々を取り上げ、復興に取り組む岩手の姿を伝え、震災の記憶を風化させず、復興への継続的な支援への理解を求めています。



■ 岩手県知事 達増拓也 presents!

岩手県公式インターネット番組『いわて希望チャンネル』

震災の記憶の風化防止や、より多くの人々に本県への関心を持っていただきたいという想いを伝えるため、達増知事がメインパーソナリティを務め、インターネット番組『いわて希望チャンネル』を毎月1回、「ニコニコ生放送」で配信しています。

いわて希望チャンネルURL》 <http://ch.nicovideo.jp/iwate-kibou>

いわて希望チャンネル Facebook》 <http://www.facebook.com/prefiwatewebtv>

過去放送分はこちら》 <http://www.pref.iwate.jp/kouchoukouhou/023509.html>





行方不明者の捜索 大船渡市

■ 自衛隊による活動

138日間にわたり多方面での支援活動を展開

東日本大震災津波では、10万7千人という空前の規模で自衛隊が派遣されました。陸・海・空の3自衛隊が、訓練以外で統合任務隊として運用されたのは初めてのことです。



音楽隊によるミニコンサート 田野畑村

自衛隊は、被災者の救出や行方不明者の捜索のほか、がれきの撤去、支援物資の運送、給水、給食のほか、女性自衛官による「お話し隊」が避難所を巡回して傾聴活動を行うなど、多方面にわたる活動を展開しました。

■ 消防による活動

全国からの援助隊と地元消防団により活動を展開

本県からの緊急消防救助隊派遣要請により、全国からの緊急消防救助隊の派遣数が延べ2,279隊、7,633人にのぼり、名古屋市消防局が県内消防活動全般の指揮をとるなど、多くの都道府県隊の支援による活動が行われました。



緊急消防援助隊 大船渡市



県外から被災地に到着した消防車群 陸前高田市

■ 被災市町村への職員派遣

全国の自治体から3,100人を超える派遣

今回の震災により、沿岸の5市町村で108人の職員の方が犠牲となりました。このような中、発災直後の3月末に、名古屋市から陸前高田市に対して職員派遣の申出があり、その後も県内及び全国の自治体から同様の申出を受け、平成23年度は171人を、平成29年3月までに3,100人を超える派遣をいただき、現在も全国の自治体に協力を依頼しています。



大槌中学校生徒会による派遣職員に感謝する会(平成25年12月)

野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市	山田町
24	28	8	79	65
大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	合計
140	135	78	138	695

(平成29年3月1日現在)

	必要人数	派遣決定数	一般事務					その他
			うち用地関係	土木	建築	保健師		
平成23年度(H24.3.31現在)	—	171	97	0	42	10	12	10
平成24年度(H25.3.31現在)	366	321	145	21	127	21	16	12
平成25年度(H26.3.31現在)	628	596	294	68	204	38	21	39
平成26年度(H27.3.31現在)	737	697	397	83	204	44	15	37
平成27年度(H28.3.31現在)	777	715	418	65	211	43	8	35
平成28年度(H29.3.31現在)	760	695	420	46	188	42	8	37

※その他は、機械技師、電気技師、看護師、社会福祉士、保育士、理学療法士、司法書士など

■ 全国から226人の警察官が本県へ特別出向

被災地の安全と安心の確立のために

平成23年度から平成28年度まで1都15県から延べ226人の警察官が本県に特別出向し、被災地の良好な治安の確保のため、応急仮設住宅の巡回やパトロール活動をはじめ、交通安全活動、犯罪の取締りなどに従事しました。

また、大船渡・釜石・宮古署では、沿岸地域の児童・幼児を対象に、ヒーロー寸劇等による防犯啓発活動も行いました。



特別出向警察官着任式



警察官によるヒーロー寸劇

出向元	出向人数(延べ)
青森県	15
警視庁	31
埼玉県	8
神奈川県	10
山梨県	11
長野県	23
三重県	15
岡山県	17
広島県	32
徳島県	5
香川県	7
高知県	5
熊本県	18
大分県	9
宮崎県	9
沖縄県	11
合計	226

■ 医療チームの派遣

全国各地の医師による被災地医療支援

発災直後には、国の要請を受けた全国のDMATが来援し、29都道府県の128チームがトリアージや応急処置、病院支援の活動を展開しました。

また、発災後間もなく岩手医科大学に設置された「災害時地域医療支援室」が窓口となって受入調整を行い、平成23年12月末までの間に88チーム、延べ4,463人の県外医師による医療支援が行われました。

さらに、岩手県医師会(JMAT岩手)による、内陸部から沿岸被災地への診療応援活動により、2つの県立病院がその支援を受けました。



参集したDMATによる打合せ 宮古市(平成23年3月)

■ 海外からの支援

つながりに感謝

被災地では、米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国・英国・中国などの救援隊も救援活動にあたりました。

また、発災直後から、多くの国々から支援物資が届けられたほか、世界各国からの義援金や寄附金が、三陸鉄道の復旧や被災地における保育所・学童施設・ホールなどの施設整備に役立てられました。

©US Pacific Fleet



海外からの救援隊 大船渡市(平成23年3月)

これまでいただいた支援の状況

東日本大震災津波発災以降、国内外の皆様から多大な御支援や励ましをいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

活動ボランティア受入人数
延べ548,936人(平成29年3月末現在)

今後とも、被災者と被災地に寄り添うご支援を引き続きお願いいたします。

問合せ先▶ 岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター ☎019-637-9711

寄附金 196億円
(平成29年3月末現在)

被災者の生活支援や住宅再建支援、雇用確保や産業の復興に活用させていただいております。

問合せ先▶ 保健福祉部保健福祉企画室 ☎019-629-5408

義援金 536億円
(平成29年3月末現在)

被災された方々の生活再建のために活用させていただいております。

問合せ先▶ 復興局生活再建課 ☎019-629-6917

いわての学び希望基金 88億円
(平成29年3月末現在)

教育の充実のための奨学金、教科書や制服の購入費、修学旅行や部活動への参加経費など、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」のために活用させていただいております。

問合せ先▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

ふるさといわて応援寄付(ふるさと納税) 10億円
(平成29年3月末現在)

三陸沿岸復興、ラグビーワールドカップ2019™を契機とした観光客受け入れ等基盤整備や国際リニアコライダーの実現など、岩手の施策を実現するための資金として活用させていただいております。

問合せ先▶ 総務部税務課 ☎019-629-5144

復興が着実に進むよう、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

三陸創造プロジェクト

「三陸創造プロジェクト」は、長期的な視点に立ったうえで、三陸地域が持つ特性と環境変化を最大限に生かし、そこで展開される生き方、暮らしやなりわいが生み出す『三陸ブランド』を確立させながら、より多くの人々をひきつけ、さらに交流・連携を深めることで多様な人材が育まれる、将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指すものです。

三陸ジオパーク 北山崎(田野畑村)

■ さんりく産業振興プロジェクト

三陸らしい個性豊かで競争力のある産業を構築します

取組例 ▶▶ 新たな交通ネットワークを活用した産業振興

平成29年にガントリークレーン整備(釜石港)、平成30年に宮古~室蘭間のフェリー航路が開通予定(宮古港)となっており、復興道路の整備と併せた企業誘致、港湾の利用促進に取り組んでいます。



平成30年就航予定の宮古~室蘭フェリー

■ 東日本大震災津波伝承まちづくりプロジェクト

いつまでも忘れない・災害に強いひとづくり、災害に強いまちづくり

取組例 ▶▶ 記録収集と経験の継承・伝承

東日本大震災津波をはじめ、過去の震災・津波被害の事実と教訓を確実に次世代に継承していくため、高田松原津波復興祈念公園内に「震災津波伝承施設」の整備を進めています。



取組例 ▶▶ 記録収集と経験の継承・伝承

東日本大震災津波からの復旧・復興の状況を後世に残すとともに、これらの出来事から得た教訓を今後の国内外の防災活動、教育等に生かすため、「いわて震災津波アーカイブ~希望~」を構築し、20万点を超える震災津波関連資料を平成29年3月に公開しました。



■ 新たな交流による地域づくりプロジェクト

定住・交流人口の拡大による活力みなぎる地域をつくります

取組例 ▶▶ 三陸ジオパークの充実とDMO機能の整備による観光振興

平成28年4月に公益財団法人さんりく基金に「三陸DMOセンター」が設置され、観光事業者のみならず、地域の団体や市町村と幅広く連携しながら、総合的な三陸地域の振興体制の整備を進め、三陸ジオパークを核とした観光振興、ユネスコが「大地の公園」として認証を進めている世界ジオパーク認定を目指した取組を行っています。*DMOとは、観光地経営の視点に立った観光地域づくりのかじ取り役。



■ さんりくエコタウン形成プロジェクト

環境と共生したエコタウンを実現します

取組例 ▶▶ 地域に根ざした再生可能エネルギーの導入促進

再生可能エネルギーに関するセミナー・勉強会の開催や、情報発信、導入支援マップの公開などにより、地域に根ざした再生可能エネルギーの導入を促進し、災害時にも地域でエネルギーを賄うことができる自立・分散型エネルギー供給体制の基盤づくりを進めています。

地域の防災拠点となる市町村庁舎・消防署・病院や、災害時の避難所となる学校・公民館などへの太陽光発電設備、蓄電池、ソーラー街路灯の設置など再生可能エネルギー設備の導入を支援しています。



野田村保育所に設置した太陽光発電設備

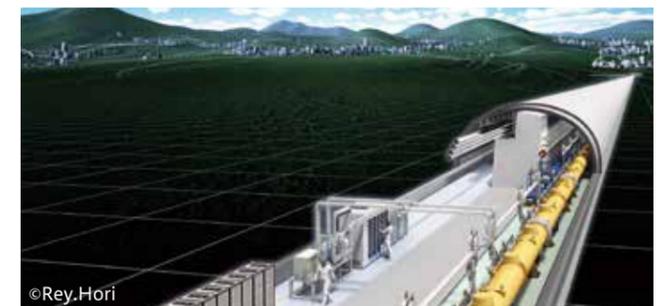
洋野町庁舎屋上に設置した太陽光発電設備

■ 国際研究交流拠点形成プロジェクト

国際的研究拠点・国際学術研究都市を構築します

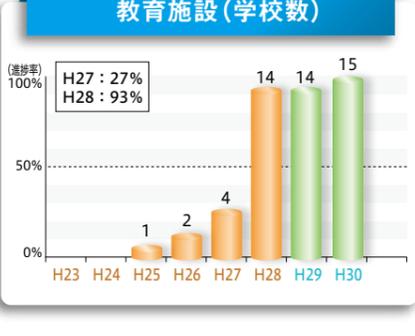
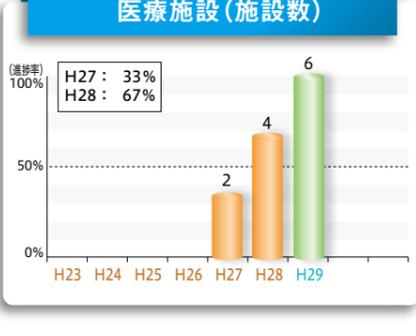
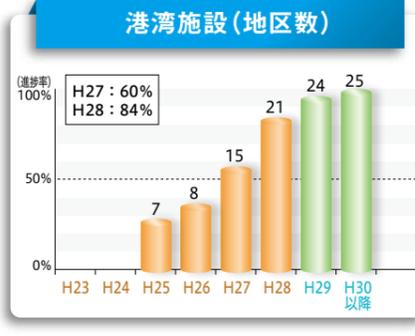
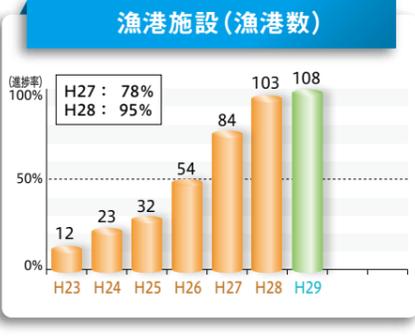
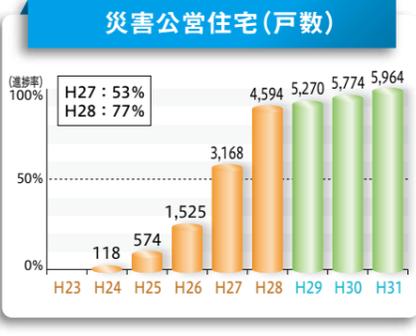
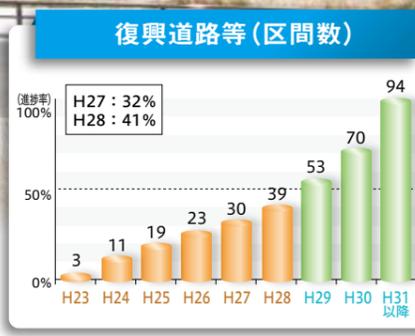
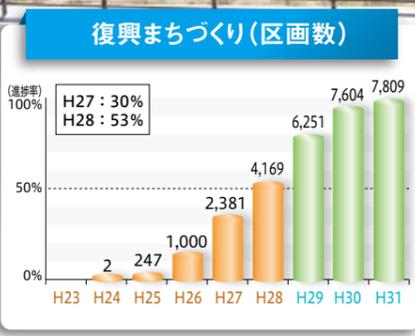
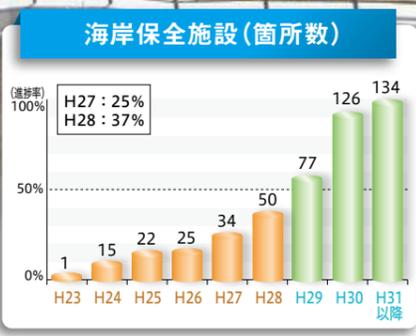
取組例 ▶▶ 国際リニアコライダー(ILC)を核とした国際学術研究都市の形成

ILCは、全長31~50kmの地下トンネルに建設予定の最先端の素粒子研究施設です。平成25年8月23日、専門組織の「ILC立地評価会議」は、岩手県南から宮城県北にかけての北上山地を国内建設候補地に決定。実現すると、国際的な学術研究都市が形成され、研究の促進や産業の振興などが期待されます。



©Rey.Hori

主な復旧・復興事業の今後の見通し



※平成29年3月31日現在
 ※平成28年度までの実績(オレンジ)と平成29年度以降の完成(完了)見込(緑)をグラフにしたものです。
 ※今後の状況によっては変更となる場合があります。



社会資本の復旧・復興ロードマップ

県では、復興まちづくりや災害公営住宅などの8分野について、復興事業の動きや今後の見通しを『社会資本の復旧・復興ロードマップ』として取りまとめ、県のホームページなどでお知らせしています。

社会資本の復旧・復興ロードマップ ▶ <http://www.pref.iwate.jp/anzen/machizukuri/18200/index.html>

これまでの復興の歩み 2011.3~2017.3

▶ 2011

- 3月 11日 東日本大震災津波発生
岩手県災害対策本部設置
- 13日 県内の避難者数が最多の5万4,429人に(在宅含む)
- 15日 航路等の啓開により、県内港湾で初めて釜石港の荷役制確保
- 16日 釜石港に救援物資を積んだ第1船入港
三陸鉄道北リアス線
陸中野田~久慈間の運行再開(以後、4月1日までに他2区間において運行再開)
- 19日 応急仮設住宅の建設を開始(陸前高田市・釜石市)
- 4月 9日 県内初となる応急仮設住宅への入居開始(陸前高田市)
- 11日 「がんばろう! 岩手宣言」発表
「岩手県東日本大震災津波復興委員会」設置
- 29日 東北新幹線が全線復旧
- 5月 6日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(釜石市・宮古市)
- 25日 文仁親王妃両陛下が被災地をご訪問(~26日、大槌町・山田町)
- 6月 2日 宮古市に「子どものこころのケアセンター」を設置
- 6日 正仁親王妃殿下が避難所をご訪問(雫石町)
- 20日 「東日本大震災復興基本法」成立
- 29日 平泉の文化遺産が世界遺産に登録
- 7月 3日 「東北復興平泉宣言」発表
- 13日 県内で初めて宮古港のコンテナ貨物取扱い再開
- 15日 三陸鉄道が2014年4月までに全線運行再開の方針を決定
- 26日 自衛隊が本県での支援活動任務を終了、県庁前で感謝式開催
- 8月 5日 皇太子同妃両陛下が被災地をご訪問(大船渡市)
- 11日 県内全ての応急仮設住宅が完成
県が「岩手県東日本大震災津波復興計画復興基本計画」を策定
- 31日 県内の全ての避難所を閉鎖
- 9月 16日 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(住田町・陸前高田市)
- 28日 東京都が岩手県内のがれき受け入れを発表、初の広域処理へ
- 10月 3日 岩手県産業復興相談センター開所
- 11月 20日 復興道路が着工(三陸沿岸道路(尾肝要道路))(田野畑村)
- 12月 7日 「東日本大震災復興特別区域法」成立
- 26日 県が復興特区プロジェクトチームを設置

▶ 2012

- 2月 15日 岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を開設
- 10日 国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置
- 26日 釜石港湾口防波堤の復旧工事に着工(釜石市)
- 3月 8日 県内初の防潮堤復旧工事に着工(宮古市金浜海岸)
- 11日 東日本大震災津波から1年、各地で追悼式などが挙行される
- 28日 沿岸4箇所に「地域こころのケアセンター」を設置
- 4月 1日 「いわてDC(デスティネーションキャンペーン)」を開催(~6月30日)
- 5月 26日 東北六魂祭が盛岡で開催され、2日間で24万人を超える入出を記録
- 6月 11日 県が「復旧・復興ロードマップ(総括工程表)」を発表
- 14日 県内で初めて災害公営住宅の建設に着手(釜石市平田地区)
- 9月 12日 陸前高田市「奇跡の一本松」を保存のため伐採
- 10月 10日 県内で初めて、高台移転のための用地造成工事に着工(田野畑村)
- 11月 25日 大震災津波後、県内で初めてとなる復興道路の供用開始(東北横断自動車道釜石秋田線(宮守~東和))(遠野市、花巻市)
- 12月 10日 県内で初めて災害公営住宅への入居開始(大船渡市盛中央団地)
- 13日 大槌町の蓬莱島の灯台が再点灯
- 19日 文仁親王妃両陛下が被災地をご訪問(~20日、陸前高田市・大船渡市・遠野市・盛岡市)



▶ 2013

- 1月 26日 大阪府において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 2月 1日 県内全ての応急仮設住宅団地500メートル以内にバス停の設置を完了
- 6日 東京都において「東北連携復興フォーラム」を開催
- 9日 宮古市において「復興のかけ橋フォーラム」を開催
- 3月 2日 JR大船渡線気仙沼～盛間でBRTによる運行開始
- 10日 復興道路「宮古盛岡横断道路(築川道路)」供用開始(盛岡市)
- 25日 県内で初めてとなる移転先宅地の造成工事が完了(宮古市追切・浦の沢地区)
- 4月 1日 久慈市を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放映開始
- 3日 三陸鉄道南リアス線盛～吉浜間の運行再開
- 5月 8日 矢巾町に「いわてこどもケアセンター」を設置
- 24日 「三陸復興国立公園」創設
- 7月 3日 「奇跡の一本松」保存事業完成式開催
- 4日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(～5日、遠野市・住田町・大船渡市・陸前高田市・一関市)
- 25日 2016年国体の岩手開催が正式決定
- 8月 5日 正仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～6日、岩泉町・田野畑村・野田村・久慈市)
- 23日 「ILC立地評価会議」が国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地を北上山地に決定
- 27日 米国ニューヨーク市で「トモダチでありがとう」震災復興報告会を開催
- 9月 24日 県沿岸部を中心とした「三陸ジオパーク」が日本ジオパークに認定
- 10月 13日 復興道路「三陸沿岸道路(普代道路)」供用開始(普代村)
- 11月 1日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(～2日、釜石市)
- 2日 大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 12月 19日 愛知県において「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」を開催

▶ 2014

- 2月 6日 シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(～7日)
- 13日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 復興道路「三陸沿岸道路(尾肝要道路)」供用開始(田野畑村)
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(高田道路)」全線供用開始(陸前高田市)
- 陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベア「希望のかけ橋」稼働開始
- 31日 本県の災害廃棄物処理が終了
- 県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第2期)」を策定
- 4月 5日 三陸鉄道南リアス線 吉浜～釜石間の運行再開により、全線において運行再開
- 山田町立船越小学校、被災校舎から移転・新築した新校舎での授業開始、被災3県で初
- 6日 三陸鉄道北リアス線 小本～田野畑間の運行再開により、全線において運行再開
- 12日 釜石線花巻～釜石駅間でSL銀河が営業運転を開始
- 23日 大船渡市新魚市場の完成式典開催
- 用地取得迅速化のための「東日本大震災復興特別区域法の一部を改正する法律」成立
- 5月 29日 リアスハーバー宮古の復旧工事が完了・供用再開
- 6月 23日 県栽培漁業協会が震災後初のアワビ種苗を出荷
- 26日 国・県・陸前高田市による「高田松原津波復興祈念公園基本構想」策定
- 8月 24日 復興道路「宮古盛岡横断道路(平津戸松草道路・区界道路)」の着工により
- 県内の復興道路が全て着工
- 30日 仏国パリ市で「東北復興祭“環<WA>”in PARIS」開催(～31日)
- 11月 7日 // 「つながりに感謝」震災復興報告会を開催
- 12月 18日 釜石警察署平田駐在所が開所、警察施設としては県内初の災害復旧後の開所

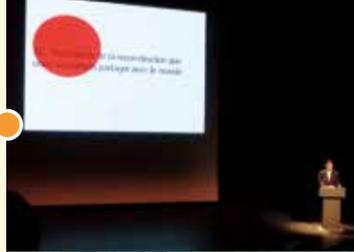
▶ 2015

- 1月 8日 兵庫県において「いわて三陸復興フォーラム in 神戸」を開催
- 15日 盛岡市・大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」、シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(～16日)
- 28日 宮古市立立老第三小学校校庭の応急仮設住宅を解体、学校校庭からの完全撤去は県内初
- 2月 12日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 「ラグビーワールドカップ2019」の開催都市に「岩手県・釜石市」が決定
- 14日 「第3回国連防災世界会議」が仙台市をメイン会場に開催される
- 岩手県は「防災・復興に関する岩手県からの提言」を世界に発信(～18日)
- 「3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館」が開所(遠野市)
- 19日 県立高田高等学校新校舎が完成(陸前高田市)
- 31日 県内牧草地の除染作業が完了

岩手日報2013年3月3日付



第71回国民体育大会岩手県準備委員会 第7回総会
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会 第1回



▶ 2015

- 4月 26日 再建された小袖海女センターがオープン(久慈市)
- 5月 30日 第1回いわて復興未来塾を開催(盛岡市)
- 7月 8日 釜石市の橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録
- 12日 県内で初めて、仮設商店街が本設として移転オープン(大船渡市)
- 11月 10日 台湾台北市で「つながりに感謝」震災復興報告会を開催
- 22日 高台移転地の造成工事がほぼ完了した田老地区で「田老まちびらき記念式」が開催される(宮古市)
- 29日 復興道路「三陸沿岸道路(吉浜道路)」供用開始(大船渡市)
- 12月 5日 復興道路「東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～宮守)」供用開始(遠野市)
- 18日 静岡県において「いわて三陸復興フォーラム in 静岡」を開催
- 23日 「小本津波防災センター」が完成し岩泉小本駅と一体化

▶ 2016

- 1月 22日 盛岡市・大槌町において「いわて三陸復興フォーラム」を開催(～23日)
- 27日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体冬季大会」を開催(～31日、2月20日～23日)
- 3月 12日 復興道路「宮古盛岡横断道路(都南川目道路(川目～田の沢))」供用開始(盛岡市)
- 13日 大船渡駅周辺地区で「第1期まちびらき」を開催
- 4月 11日 新「がんばろう!岩手」宣言発表
- 17日 大槌町の浪板海岸に「浪板海岸ヴィレッジ」がオープン
- 23日 久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」が営業再開
- 「田老野球場(愛称:キッ、サクラサク野球場)」の復旧祭を開催
- 27日 県立大槌病院が再建、新築落成式を開催
- 5月 20日 いわて内陸避難者支援センターを開所
- 6月 20日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(～21日、岩泉町・宮古市)
- 8月 19日 県立山田病院が再建、新築落成式を開催
- 30日 台風10号が岩手県に上陸
- 9月 26日 被災した小・中5校を統合、
- 県内初の義務教育学校大槌町立大槌学園の新校舎での授業開始
- 28日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(～10月2日、花巻市・遠野市・釜石市・大槌町・山田町・北上市・盛岡市)
- 10月 1日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体本大会」を開催(～11日)、
- 開会式に天皇皇后両陛下ご臨席
- 3日 彬子女王殿下が被災地をご訪問(～5日、釜石市・大槌町・奥州市・花巻市)
- 5日 正仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、奥州市・花巻市・北上市・陸前高田市)
- 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、滝沢市・盛岡市・奥州市・釜石市)
- 寛仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～9日、大船渡市・釜石市・花巻市・奥州市)
- 7日 眞子内親王殿下が被災地をご訪問(～9日、盛岡市・紫波町・宮古市・岩泉町・田野畑村)
- 8日 瑠子女王殿下が被災地をご訪問(～10日、洋野町・野田村・普代村・久慈市・滝沢市・盛岡市・二戸市)
- 9日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～11日、久慈市・若手町・雫石町・矢巾町・盛岡市・北上市)
- 11日 文仁親王同妃両殿下が「希望郷いわて国体本大会」閉会式ご臨席
- 21日 皇太子殿下が被災地をご訪問(～23日、盛岡市・花巻市・北上市・奥州市・一関市・平泉町)
- 22日 第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」を開催(～24日)、
- 開会式に皇太子殿下ご臨席
- 23日 憲仁親王妃殿下及び絢子女王殿下が被災地をご訪問(～24日、盛岡市・花巻市・金ケ崎町・北上市)
- 24日 憲仁親王妃殿下及び絢子女王殿下が「希望郷いわて大会」閉会式ご臨席
- 11月 10日 山田町で共同店舗「オール」オープン
- 12月 3日 長野県において「いわて三陸復興フォーラム in 長野」を開催

▶ 2017

- 1月 20日 盛岡市・釜石市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催(～21日)
- 3月 3日 「東北4県・東日本大震災復興フォーラム in 東京」及び
- 「東京から元気を届けよう!復興応援2017」を開催
- 5日 「高田松原津波復興祈念公園」着工
- 30日 県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第3期)」を策定
- 「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を公開



人口/世帯数

1,268,083人/523,205世帯（平成28年10月1日現在）

位置/面積

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122km、南北約189kmと南北に長い楕円の形をしています。その広さは北海道に次ぐ面積(15,275.01km²)であり、日本の面積の4%を占めています。

県旗・県章

県旗は、県章をなんど色(グリニッシュグレイ)の地色の旗面中央に白ぬきしたもので、昭和40年3月6日に制定しました。



県旗・県章

県の鳥

キジ 県内全域に生息しています。雄は光った帯緑黒色の美しい羽と長い尾羽を持ち、雌は地味で体が淡黄かつ色、体一面に黒点があります。気品にあふれ、勇壮で愛情こまやかな習性は県民性を表しています。



キジ



ナンブアカマツ

県の木

ナンブアカマツ 県内いたるところに生息している本県産の代表的樹種です。特に古生層の丘陵地帯に多く、早く成長します。油脂分が多いため、磨けば磨くほど優雅な光沢を出し、純和風高級材として質、量ともに日本一を誇っています。



キリ

県の花

キリ 本県産のキリは、材の光沢が強く淡紫色をおびて美しいので「南部の紫桐」として知られています。



南部さけ

県の魚

南部さけ 体長約90cm、体は紡錘形をしていて、秋、故郷の川をさかのぼり、上流の砂底に産卵します。岩手県は、秋サケでは、本州一の漁獲量を誇り、昔から多くの県民に親しまれてきた魚です。

新幹線 盛岡駅まで

新函館北斗	約1時間55分
東京	約2時間10分
名古屋	約4時間10分
大阪	約5時間10分
福岡	約7時間45分

航空 いわて花巻空港まで

札幌	約55分
名古屋	約70分
大阪	約80分
福岡	約120分

東北自動車道 盛岡ICまで

東京	約5時間30分(東北道)
名古屋	約10時間30分(東名・首都高速・東北道経由)
大阪	約13時間(名神・北陸・磐越・東北道経由)



岩手県へのアクセス

20万点を超える東日本大震災津波に関する資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ  **希望**

<http://iwate-archive.pref.iwate.jp/>

CHECK!

パソコンから タブレットから スマートフォンから

今すぐアクセス



復興教育の資料に

防災活動の参考に

震災伝承に



岩手県では、東日本大震災津波からの復旧・復興の状況を後世に残すとともに、これらの出来事から得た教訓を今後の国内外の防災活動、教育等に生かすため、市町村や防災関係機関の皆様にも御協力いただいて、「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を構築しました。

写真提供 岩手県建設業協会/岩手日報社/大槌町/大船渡市/釜石市/久慈市/三陸鉄道/JR東日本盛岡支社/田野畑村/東北地方整備局/野田村/野田村観光協会/宮古市/山田町/陸前高田市 (五十音順・敬称略)

いわて 復興の歩み

平成29年7月発行

企画・発行 岩手県

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号